

# 新科目「福祉入門」実践報告

## ～福祉を身近なものにする科目の開発～

家庭科 田中友紀子・福祉科 熊倉悠貴・埼玉大学 河村美穂

福祉的な視点を持ちながら生活できる生徒を育てたい。新教育課程に変わるにあたり、生活・人間科学科目群選択者全員が福祉を学べるように科目を位置付けた。本来、福祉とは誰もが学ぶべきものであるにも関わらず、教科「福祉」の科目は、介護福祉士受験資格取得を目指したものに内容が限られている。そのため、学ぶ分野が限定的であり、だれもが福祉に関わるという視点は養い難い。そこで、本科目では、福祉が身近なものとなる・必ずしも専門職に就かなくても福祉について考えられる・自分の地域で活躍できるような人材になる、その種まきになるような科目開発を試みた。

キーワード：生活と福祉 福祉入門 社会福祉の理念 福祉問題の構造理解 福祉問題の発見

### 1. 科目開発の経緯

「なぜ、アパレルモデルの私が福祉なんてやらなければならないのですか。」もう6年前であるが、生活・人間科学の3年次生徒全員が学ぶ「社会福祉援助技術」の科目で、何人かの生徒にこのようなことを言われた。

生活・人間科学科目群では、2年次に生徒全員が生活の基盤である「衣・食・住」について学ぶ。そして自分の興味関心に応じて、2年次・3年次では、服飾・食・福祉についてそれぞれ専門的に学ぶことができる。これまで、生活・人間科学の生徒全員が学ぶ福祉科目は、3年次の「社会福祉援助技術」のみであった。福祉を中心に学んできた生徒にとっては、興味のあることを更に学べるということ、授業に対するモチベーションは高かったものの、服飾・食を中心に学ぶ生徒のモチベーションは低かった。

「社会福祉援助技術」の授業では、生徒の授業に対する気持ち・声を集め、授業改善を試みた。そしてその翌年からは、年度初めに福祉の入門的な講義をし、福祉を学ぶ意義などを理解させてから、農業科の視点・工業科の視点・福祉科の視点・特別支援教育の視点につなげ、ふりかえりの時間も設けることにした。そうしたところ、当時言われたような不満の声は聞こえてこなくなった。

今年度から始まった新教育課程では、生活・人間科学科目群の生徒全員が2年次・3年次と連続して福祉を学ぶ。そしてその科目を担当する教員は家庭科の教員、福祉科の教員がTTで授業を行うと決まり、いよいよ科目の開発をしていくこととなった。

これまでの福祉科目の実践から、理解や態度の育成・行動変容の面で、生徒はどこか他人事として福祉をとら

えているように見受けられることが課題であった。また、「生活」「自立」を重視したいキーワードと考えた。「自立して生きること」は人間なら誰しもがもつ権利である。それは誰の力も借りずに生きることではなく、自分の意思で生活をつくり出していくことともいえる。家庭科の視点からとらえても、福祉科の視点からとらえても、生活と福祉は切り離せない関係にあるはずである。しかし、高校生にとっては、生活をつくるといっても、実感をもって考えることがなかなか難しい。それに、家庭科でも福祉でも特に高校の授業では「高齢者福祉」「障害者福祉」「子ども家庭福祉」などをそれぞれ学んでいくためか、生徒の中でも学びが分断されやすい。また、本校の福祉科目が目指すのは、専門職養成ではなく、教養として皆が福祉を学ぶことである。人と関わらずに生活するということはできない。皆どこかでつながっている。特に、生活・人間科学科目群では、他人と関わる・誰かのために何かをつくる等、「ヒト」・「生活すること」がそれぞれの科目の中心にある。

そこで、本科目では「生活」と「福祉」を結びつけ、福祉を身近なもの・自分と関係のあるものとして主体的に学ばせられるよう、科目開発に取り組むことにした。

### 2. 学習目標の設定

生徒に身につけさせたい目標として、森本佳樹の『地域福祉の構造と内容』などの文献を参考に4つの学習目標を段階的に設定した。

この4つの段階はステップを踏んで昇っていくものであるが、必ずしも一方向のものではなく、昇ったり降り

たりしてその段階の目標を身につけていくものである。

### 1) 社会福祉の理念

人間は誰もが生きて存在する価値のあるものだという人権感覚や誰もが幸せに生活することができる社会を目指すノーマライゼーションの理念などを知り、理解したうえで実践につなげようとする段階を目指す。そのためには、社会福祉の歴史、自立の概念、ICF（国際生活機能分類：International Classification of Functioning, Disability and Healthの略称）などの考え方を理解させると同時に、人は皆生活者であること・生活する人を支える社会福祉という点を意識させることで、社会福祉を自分とは関係のないものと捉えるのではなく、自分自身の身近に社会福祉はあるのだという感覚を身につけさせたい。

### 2) 生活における福祉問題の構造

人が生活上困っていることには、社会の構造上の問題から引き起こされている場合もある。問題解決のためには個人に対する支援に加え、社会の制度や政策、サービスなどの環境を整えていくことが必要であることを理解できる段階を目指す。

### 3) 身の回りにおける福祉問題

福祉問題の構造の理解をふまえ、生徒が福祉問題に関心を持ち、身の回りにおける問題を自分で発見すること。そして、その解決策を生活者の視点に立って考えることができる段階を目指す。

### 4) 社会福祉（地域福祉）の主体形成

福祉社会の一員としての自覚を持ち、地域福祉のインフォーマルな資源となって地域の福祉を支える。ひとりひとりが自分らしく生活する・地域で暮らすことができるように、皆で支え合っていく。そのひとりとして関わっていくことができる段階を目指す。

## 3. 授業実践の実際 【資料①】

### <1学期>

1学期は社会福祉の理念と意義を理解し、福祉問題がどのようにして起きるのかその構造を理解すること、福祉を身近に感じることを目標にした。そのために、まずは押さえてほしい社会福祉の理念と意義について講義し、その後具体的な福祉問題を取り上げて調べ学習のスタイルをとった。

ルをとった。

#### ・「福祉入門」導入

導入・科目ガイダンスも兼ね、自己紹介を行う・“福祉”をキーワードに、連想するもの・イメージ・言葉などを何でも書き出すウェビングを行った。2年次の4月はクラス替えをしたばかりであり、1年次で選択した科目での専門的な学習の始まりの時期でもある。アイスブレイクのような要素も盛り込み、生徒の福祉に対する想いやイメージなどをつかむ時間をつくった。

#### ・社会福祉の理念と意義

講義形式で、ワークシート【資料②】を用いて、福祉科の教員による授業を行った。自分はすでに福祉に関わっていると考えている生徒は少ない。福祉入門では自分を視点に福祉について考えさせることを目標としているため、生存権や幸福追求権に基づく社会福祉の理念について説明するとともに、自分が子どものときにどのような助けを受けたのか、福祉のサービスに特に縛られないように思い出させた。そこから子ども・大人・お年寄り時代にどのような危機が想定されるのか、またそれを乗り越えるための手立てにはどのようなものがあるのか考えさせた。

#### ・生活と福祉（1）

下記のように4つのテーマを設定し、そのテーマに関する講義の後、PCで各自調べ、ワークシート【資料③】にまとめる授業を行った。

- ・買い物弱者
- ・待機児童
- ・非正規労働者
- ・自分の地域と福祉

これらのテーマは、生活における福祉問題にふれることができるようなもの・生徒の興味関心の高そうなものを選んだ。

### <2学期>

2学期は社会福祉の理念と福祉問題の構造を理解させることを目標にした。理念も構造も理解するためには自分の頭でしっかり考えて実感することが必要である。そのため講義形式の知識注入型の授業スタイルではなく、調べ学習のスタイルをとった。

## ・生活と福祉（2）

調べ学習をするにあたり、教員による11の大きなテーマとサブテーマを設定した。生徒を4～5人で1つのグループにし、生徒にテーマを選択させずに、くじ引きで、11の大きなテーマを振り分けた。生徒は、一人一人がそれぞれの11大テーマの中のサブテーマを担当し、調べてきたことをパワーポイントにまとめて全体の前で発表するという形式にした。

今回設定した11大テーマは以下の通りである。今回の調べ学習にこれらのテーマを設定した理由は、生徒にとって身近であること又は今話題となっていて親しみやすいためである。

### 〈2学期調べ学習 11大テーマ〉

- ・「障がい」の概念
- ・ノーマライゼーションとは
- ・認知症と介護
- ・ボランティアとは
- ・生活保護のしくみと課題
- ・パラリンピックについて
- ・子どもを守る
- ・子育て支援
- ・介護保険制度について
- ・福祉の偉人たち
- ・バリアフリーとは

9月～約1カ月間、共通で調べる時間をとり、10月～11月は、3～4回に1回のペースで発表の時間を設定した。発表グループは最大3つで展開した。自分で調べたテーマ以外の分野も主体的に学ばせるために、発表を聴く側の生徒には、発表内容の要約をワークシートに書かせて取り組ませた。さらに、期末考査は発表した内容から出題するとし、真剣に取り組むような雰囲気作りを努めた。

生徒は一人一人違うテーマを担当して発表するため責任感をもって調べ学習に取り組んでいる様子がみられた。調べていく途中で方向性がずれてくる生徒もいるため、教員による個別指導の時間も設けた。

### 〈3学期〉

3学期は身の回りにある福祉問題について気付き、その解決策を考えることを目標にした。そのために、生徒が自ら取り組む課題を設定してその解決を目指す課題解決型の授業スタイルをとった。

## ・身の回りにある福祉問題の発見

### 1) 問題発見・解決策を探る

3年次に行う卒業研究のように、生徒自ら問題・課題を発見し、その解決策を探る。テーマ設定の際は、自分の身近なヒト・ものに注目するということを意識させた。そのため、初回の授業では、「テーマ名」「問題の所在」「調べ方」「わかったこと」等が書き込むワークシートを用意し、それをもとに教員が面談し助言を行った。また、教員は随時、相談に応じ、進め方に悩んでいる生徒などのフォローにあたった。生徒がどのようなテーマを設定したかは【資料④】をご覧ください。

### 2) ポスター発表会

1) で進めてきた経緯や成果を各自パワーポイントで8～10枚のスライドにまとめ、プリントアウトし、1枚の模造紙に貼り、ポスター発表会を行った。

今回は2時間の授業の中で、生徒全員（46人）が発表することにしたため、テーマ毎に8つのグループ作り、6区間の時間枠を設けた。発表者は、持ち時間を10分とし、6分間発表、3分間質疑応答、1分で次の発表者と入れ替えることとした。

発表会当日は、生徒が相互評価できるようなワークシートとテーマ名の載ったプログラムを配布した。生徒は自分が発表する時間帯以外は、興味のあるテーマのところへ行き発表を聴き、質問するというようにした。また、今回の発表会では、できる限りたくさんの方の前で発表し、様々な意見をもらうことが生徒にとっても励みになると考え、担当教員の他に、校内の先生方、科目開発に関わってくださった先生方、社会福祉協議会から社会福祉士をお招きし、講評もいただいた。

## 4. 授業の成果

### 1) 生徒の感想

生徒にとっては、この1年間の学習がどのようにとらえられているのか。福祉を身近なもの・自分と関係のあるものとして主体的に学ばせることはできたのかについて、最終授業で生徒に書いてもらった感想文から考えた。なお、最後に課した感想文の課題については、以下のように指示を出している。

- ・1年間を福祉入門の学習を通じてのあなたの変化について、「こう変わった」という事実と「あなたの気持ち（理由・あなたの分析・考察）」をあわせて書くこと。

- ・今年度初めての授業でもあるため、今後更により良い授業にするために率直且つ建設的な意見を願ったこと。
- ・成績には加味しないこと。

残念ながら、上記の指示にある“成績に加味しない”という点が良くなかったためか、受講者数46名のうち、回答数は34名にとどまってしまった。しかし、提出してくれた生徒からは貴重な意見を得ることができた。

感想文の記述に「学習目標に関わるキーワードがあらわれている」「学習目標を理解しているととらえることができる」というものをチェックし、4つの学習目標のどの段階まで到達することができたかをあらわしたものが、【表1】である。感想文にあらわれていない部分については判断しなかった。

【表1】

どこまで到達しているか	人数	% (34人中)
1) 社会福祉理念の理解 <small>自分の身近に福祉はある</small>	15	44
2) 生活における福祉問題 構造の理解	3	9
3) 身の回りにおける福祉問題 の発見	12	35
4) 主体形成 <small>地域福祉のインフォーマルな資源となる。 皆で支え合う。そのひとりとして関わることができる。</small>	4	12

「4) 社会福祉(地域福祉)の主体形成」まで到達できたと記述から受け取れる生徒は、34人中、4名であった。科目の目標を考えた際に、4)まで到達できる生徒はごくわずかかもしれないが、目指す生徒像はこうであってほしいと願い、4)を設定した。以下は、4)まで到達できたと判断した生徒の感想である。

#### <生徒A>

この前、最寄り駅で子どもをだっこし、ベビーカーをかついで階段を上っている女性がありました。今までの私だったらきっと見て見ぬふりをしてしまっていたと思います。だけど重たそうに子どもとベビーカーをもっていたので、声をかけ、ベビーカーを私が持ち一緒に階段を上りました。他の人からすれば小さなことだと思いますが、自分の中ではとても大きな変化でした。また、親戚に、認知症と診断された人がいました。認知症について母と考えたり、これからどのようにしていけば良いかを

真剣に話しました。そのように私の中でたくさん小さな変化がいくつも見つけられました。

#### <生徒B>

福祉入門での学習を通じて、福祉の面から社会を見ることが増えました。公共の施設でお年寄りの人や、子連れの親子を見たりすると席を譲るようになりました。あとは授業でバリアフリーやお年寄りの方がどれだけ大変かを理解できたので、困っているお年寄りを見かけたら声をかけるようになりました。授業で学ぶまで、声をかけたり行動するのにとても勇気が必要だったし、結局声をかけられずに終わってしまうパターンが多かったけど、日が経つにつれて、普通に声をかけられるようになりました。

#### <生徒C>

この1年間、福祉入門を受けている間に祖父が認知症になって、デイサービスに通うようになった。デイサービスに通うようになって「行きたくない」とか、また、父も倒れてしまって、左半身を麻痺してしまい、病院で車いす生活になってしまうなど。身近での大きな問題によって深く考えさせられました。祖父のことについては2学期に「在宅介護」について調べたことによって、今、どんなサービスがあるのか分かったし、3学期の自分で調べるときには、通所を拒否したという問題の中身と向き合って解決策を導くことができました。今は叔母の家で過ごしていますが、またデイサービスを使うことがあるかもしれない。そのときはもう「行かない」と祖父が言わないように心がけていきたいです。

#### <生徒D>

「福祉」についての関心は少なくとも高くなったんじゃないかと思う。授業を受ける前までは、恥ずかしいけど「福祉」って漢字すら書けなかった。1年間学んできたから意識や関心が高くなったと思う。登校中の電車内であったり、外を歩いている時であったり、困っている人がいたら、助けたいと以前より強く思うようになった。特に電車内、以前はお年寄りの方に席を譲るのは、勇気がいるので声をかけるのが恥ずかしいと、お年寄りを見て見ぬフリや寝たフリをしていたけど、この1年で「どうぞ」という声は何のためらいもなく、恥ずかしいとか考える間もなく、先に出るようになった。これは自分の中で一番変化を感じた。

生徒A～Dは、1年間の学びを通じ、自分の身の回りで起こっていることの中から、自分にもできることを考え、行動することができたと記述している。生徒は成績には加味されないと伝えられたうえでこの感想文を書いている。よく見せようとした部分が全くないわけではないだろうが、概ね素直に書いたものであると言えるだろう。これまで私たちが担当してきた科目にはあまり見られない変化であった。

また、A～Dの生徒のように行動変化までは至らないものの、目標3)の「身の回りにある福祉問題の発見」には至ったという生徒も含めると、身の回りにある福祉に目が向くようになった生徒は、4)まで達した生徒と合わせて16名となる。目標1)の「社会福祉の理念に対する理解」まではできても、身の回りにある問題に目が向くようになること、さらにその上の段階である主体形成などはかなり難しいかもしれないという予想に反し、大きな手応えを感じることができた。

他にも、34人中31人の生徒が福祉に対する考え方が変わった、身近になったと記述している。「子どもからお年寄りまで、福祉は幅広い」、「福祉はすべてにつながっている」、「自分以外の誰かのためをもって考えることが福祉なのかな」福祉とは何かということを、このように自分の言葉でまとめている記述も目立つ。初めは自分にとって遠い存在・今の自分には関係ないと思っていた福祉が身近になったという。専門職に就くわけではないから関係ないではなく、誰もが福祉を学ぶ意義を1年間の学習を通じて感じてくれたように思う。

## 2) 変化をもたらした要因として考えられること

生徒の変化につながった要因は2つあると考える。1つは、この科目の内容である。生活と福祉を結びつけられるようなテーマや生徒が身近に感じることでできるようなトピックスを選び、生徒にとって福祉とは高齢者や障がい者に関わるものだと限定されないように工夫した。1学期を例に挙げると、「買い物弱者」は生徒の日々の生活でも必ず行う“買い物をする”ということに困っている人がいるということに気付かせ、それぞれの地域事情に目を向けさせた。「待機児童・子育て支援」は、将来は保育士・幼稚園教諭になりたいという幼児教育に関心の高い生徒に響いた。「非正規労働者」も予想以上に関心が高かった。高校生という年齢が、アルバイトとして、働くことはできる年齢であること。また、本校では産業社会と人間や進路学習などのキャリア形成に関わる学習活動を通じて、働くことについて考える機会の多い学校

であることなどが考えられる。また、分野を限定せずに幅広く取り上げたことで、生徒の幅広い興味関心、生徒それぞれの生活、生徒の身近な人などと、どこかでつながりをもたらすことに成功したのではないかと考える。

変化につながったと考えられる要因の2つ目は、1学期から3学期までに学習方法がステップアップしていくようにしたことである。本科目における学習方法のステップアップとは、生徒が自分の力で調べていくことが、段階が進むにつれて増えていくことを示している。初めは教員が調べる道筋を細かく立て生徒はそれに従って調べていくが、段階が進むごとに生徒が自分で調査項目や方法を考え調べて行くように学習方法を設定していった。

- 【1学期】①教員が、課題・問題を具体的に提示する。
- ②教員が、調べ方も提示する。
- ③①・②に従い、生徒が解決方法を調べる。

- 【2学期】①教員は、課題・問題を大まかに提示する。
- ②生徒は、自分で調べ方を考え、解決方法を調べる。

- 【3学期】①生徒が課題を自分で発見する・考える。
- ②生徒は、自分で調べ方を考え、解決方法を調べる・考える。

3学期の「身の回りにある福祉問題の発見」では、生徒が自由に興味関心のあるテーマで問題提起や問題解決に取り組んだ。どのように進めたらよいか行き詰まってしまう、全く前に進むことができないという生徒はいなかった。インターネットで調べる生徒は多かったが、パソコンにかじりついているだけではなく、身近な人へインタビューをしたり、自分の地域の支援をしている団体へ行ったり、社会福祉協議会に話を聴きに行くなど自分から校外へ出て行こうとする生徒も多く見られた。また、自分には何ができるか、どの部分で関わられるかを一生懸命考え、自分に引き寄せてテーマ設定できている生徒が多かった。学習方法のステップアップにより、知識が身に付き、情報収集の仕方や調査の方法など、進め方の手立てがわかったこと。相手に伝えるためにはどのような点を話せば良いかなどの伝え方がわかったことも生徒の活動を支えていたと感じる。

本校は1・2年次の学習活動においても、生徒自らが問題発見をし、解決方法を考えるなど発表の機会の多い学校である。それでも、3年次の卒業研究ではどのよう

に進めたらよいかについて悩む生徒は多い。この福祉入門での学習が、3年次の卒業研究においても活かされると期待したい。

## 5. 課題と今後の展望

成果が上がった一方で、今年度は試行錯誤で進めていった部分もあり、改善すべきところも多い。改善点は3点ある。

1つ目は、課題の量や提出メ切的タイミング、取り組む際のモチベーション維持の工夫である。どの生徒からも課題を仕上げるのが大変だったという感想ももらっている。だからこそ、その負荷によって知識が身に付き、その知識があったから2・3学期と進めていくことができた、自分の身近な福祉を知ることができた肯定的な感想もある一方で、プリントの枠が広すぎだ・メ切的設定を配慮してほしいなどの感想もあった。負荷と配慮のバランスを取りながら、モチベーションと教育的な効果が下がらない程度の調整を心がけていきたい。

2つ目は、2学期の11の大きなテーマから小テーマを立てさせるための個別指導を充実させること。ワークシートを発表まで導けるようなものにするのである。また、発表の解説はより丁寧に行い、発表内容が未完成な場合には、教員がもう少し時間をかけてフォローすることである。「つき放された」と感じた生徒もいたようで、2学期は特に自主的に調べていく時間が多かった。生徒は大きなテーマからどのような視点で調べを進めていくと良いか、どの部分を明らかにするべきなのかがわからずに苦戦したようである。教員側が調べて身につけて欲しい意図と生徒の調べる方向性がかみ合わなかったというグループもあった。できる限り個別指導を行い、論点の絞り込みを行いやすくフォローしていきたい。

3つ目は3学期についても個別指導時間の確保である。自分の身の回りの問題に着目し、さまざまな場所に話を聴きに行き、聞いたことを図式化できるまでにまとめられた生徒がいた一方で、的を絞ることができていなかったり、思いこみで進めてしまっていたり、信憑性が疑われる情報かどうかの確認が不十分な生徒もいた。次年度は個別指導の中でそのような不明瞭な部分を明らかにするなどを行っていききたいと思う。

「自分と福祉は関係ない」とは思わせたくない」という教員の想いは生徒にしっかりと届き、生徒は更に自分の言葉で福祉について考えられるほどに成長できるという手応えを感じることができた。入門の授業としては、概ね成功だったといえるだろう。

今後は、この授業をさらにブラッシュアップしていく。そして、この福祉入門の発展科目として3年次に実施する新科目「福祉からみた生活」にて、地域のインフォーマルな資源として、地域の福祉を支えられるような人、“社会福祉（地域福祉）の主体形成”を目指していきたい。

### 【参考文献】

- 1) 森本佳樹(2006)「地域福祉の構造と内容」日本地域福祉学会編 新版地域福祉事典
- 2) 荒井紀子編著(2005)『生活主体を育む～未来を拓く家庭科～』
- 3) 一番ヶ瀬康子(1998)『生活福祉の成立』
- 4)大橋謙策(1999)『地域福祉論』
- 5) 徳田克己編著(2005)『障害理解の発達段階』

【資料①】 授業計画表

	学習テーマ	学習形式	学習目標との対応
1 学期	<b>社会福祉の理念と意義</b> ・ 生存権と幸福追求権	講義	1) 社会福祉の理念
	<b>生活と福祉(1)</b> ～生活における福祉問題の構造の理解～	講義	1) 社会福祉の理念
	① 買い物弱者	PCを使用した調べ学習	2) 生活における福祉問題の構造の理解
	② 待機児童	テーマ別レポート作成	
	③ 非正規労働者		
	④ 自分の地域と福祉		
2 学期	<b>生活と福祉(2)</b> ～生活における福祉問題の構造を更に詳しく理解しよう～		
	・ 障がいの概念	PC等を使用した調べ学習	
	・ ノーマライゼーション		
	・ 認知症と介護	PPのスライド作成	2) 生活における福祉問題の構造の理解
	・ ボランティア	発表	
	・ 生活保護のしくみと課題	講義	3) 身の回りにおける福祉問題の発見
	・ パラリンピック		
	・ 子どもを守る	発表について教員より助言	
	・ 子育て支援		
	・ 介護保険制度		
	・ 福祉の偉人たち		
	・ バリアフリー		
3 学期	<b>身の回りにおける福祉問題の発見</b>	相談	
	1. 身近な福祉問題を各自テーマを見つけ、問題点・解決方法を探る	調べる等各自フィールドワーク	3) 身の回りにおける福祉問題の発見
	2. ポスター発表会	発表	4) 地域福祉の主体形成

■ そのような“危機”に対してどのような援助や支援が用意されているでしょうか？

子ども時代	大人時代	お年寄り時代
-------	------	--------

⇒ でも、これだけで本当に基本的人権が守られた生活を守れるのか？

〈事例〉

今ある援助だけでは本当に誰もが基本的人権が守られた生活を送れる訳ではない！！  
それに、今ある援助も完璧ではない！！

そのためには、みんなが福祉に関わっていくことが大事！！  
福祉のシステムは特別な誰かが作るものではありません。誰もが福祉に関わり、誰もが幸せに生きることができる生活のためにはどのようにすれば良いか考えることが大切です。当然そこにはあなただけが関わっているわけではなく、あなたはそのように福祉と関わるか考えてください。

福祉入門

4 / 23

2年( )組( )番 氏名( )

◆ 福祉が目指すもの

「福祉」とは何でしょうか？ 普段簡単に使う言葉でも意外とその意味を説明しようとするのが難しいです。「福祉」はどのようなことを目的に、どのようなことを行うものなのでしょうか？

◇ 福祉の理念

社会福祉とは、  
「憲法第13条および第25条に規定される基本的人権を踏まえた個人の尊厳を旨とし、人間が有している特性を最大限に発揮して自立生活を営めるよう、自己実現を追求することを目的とし、その目的が何らかの理由により達することができない場合、本人・家族への対人援助を基軸としつつ、そのために必要な社会との調整や制度の確立を図ること」である。(大橋謙策)

憲法13条 → ① 幸福追求 ) 権  
「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。」

憲法25条 → ② 生存 ) 権  
「すべて国民は、③ 健康 ) で ④ 文化的 ) な ⑤ 最低限度 ) の生活を営む権利を有する。」

基本的人権は誰でももっているものだけというものは今や当たり前です。しかし、日常生活の場面で誰もが守られなかった生活を送っているとは限らないのです。

■ 幸福追求権や生存権の守られない“危機”にはどのようなものが想定されるでしょうか？

子ども時代	大人時代	お年寄り時代
-------	------	--------



【資料③】 1 学期 生活と福祉 (1) 4 つのテーマ ワークシート

H24 福祉入門 事例から学ぶ ワークシート

あなたの調べた福祉問題について 今回のテーマ		( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )
レポートタイトル		
1. 問題の内容		
2. 問題に直面しているひと		
3. 問題が起きている場所		
4. 問題が起き始めた時期		
5. 問題の原因		
問題の背景		
1. 問題に取り組んでいる団体 ①団体の名前		
②取り組み内容		
2. 解決に向けて必要なこと		
背景		
参考にしたサイト名と運営団体		

H24 福祉入門 事例から学ぶ ワークシート

地域での支援		( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )
レポートタイトル		
1. 取り組みの内容		
2. 取り組みの目的		
3. 取り組みに携わっているひと		
4. なぜその取り組みが始まったか		
背景		
1. 取り組みの内容		
2. 取り組みの目的		
3. 取り組みに携わっているひと		
4. なぜその取り組みが始まったか		
背景		
参考にしたサイト名と運営団体		

あなたの調べた福祉問題について 今回のテーマ ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( ) レポートタイトル	
下記の項目もできる限り、具体的に記述しよう！ 1. 問題の説明：問題の背景と問題による影響 2. どんな人がこの問題に直面しているか 3. どのような場所での問題が起きているか、深刻になっているか 4. いくつかからこの問題が起きているのどちらか 5. 問題の原因は何か	
「福祉見直し」に向けて働きたいが働けないし 問題の背景	
認可保育園以外の保育サービスを探せ！！<認可保育園へ子どもを預けることができない場合は、どのようにして対応しているか> 方法① ( ) へ預ける 方法② ( ) へ預ける	
利用可能時間	
保育料	
申し込み先	
入園可能時期 (申込可能時期)	
設備面の特徴 (どのような設備を保有しているか等)	
参考にしたサイト名と運営団体	

あなたの調べた福祉問題について 今回のテーマ ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( ) レポートタイトル	
認可保育園以外の保育サービスを探せ！！<認可保育園へ子どもを預けることができない場合は、どのようにして対応しているか> 方法① ( ) へ預ける 方法② ( ) へ預ける	
利用可能時間	
保育料	
申し込み先	
入園可能時期 (申込可能時期)	
設備面の特徴 (どのような設備を保有しているか等)	
参考にしたサイト名と運営団体	

あなたの調べた福祉問題について 今回のテーマ ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )	
あなたのレポートタイトル 次の項目もできる限り、具体的に記述しよう！ 1. 非正規雇用者はどれくらいいるのか（全労働者のなかでの非正規雇用者の割合） 2. 非正規雇用者は、どのような問題に直面しているか、悩んでいるか。 3. 2の非正規雇用者のなかでかかえている問題が、多発している地域などはあるか。 4. 問題の原因・背景は何か。	
問題解決に向けて 現在の保険制度はどうなっているか 雇用保険	
どのような保険か？ 説明	
保険料の納め方 (被保険者・運営者)	
①支払い先 ②手帳を届所	
加入条件・ 受給の条件・ 不正受給とは	
いくら もらえるか？ (給付額) もらえる期間	
参考にしたサイト名と運営団体	

あなたの調べた福祉問題について 今回のテーマ ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )	
あなたのレポートタイトル 現在の保険制度はどうなっているか 国民健康保険	
どのような保険か？ 説明	
保険料の納め方 (被保険者・運営者)	
運営者	
加入条件	
給付額 (給付内容)	
参考にしたサイト名と運営団体	

【資料④】 3 学期 ポスター発表会 テーマ一覧

	パネル①	パネル②	パネル③	パネル④
時間	テーマ	テーマ	テーマ	テーマ
9:00～ 9:10	介護・看護の 人手不足問題	リハビリ難民について	手話通訳派遣事務所 について ～寄居町の手話通訳派遣事 務所をつくるには～	母子家庭の悩み から見た支援
9:10～ 9:20	老人ホームの バリアフリーと バリアアリー	バリアフリーマップ の作成	ろう者と一緒に映画を 楽しむためには？	父子家庭への支援 について
9:20～ 9:30	おばあちゃんの ニーズを考える	自分の地域の 買い物難民 への支援	パラリンピック(卓球) について知ってもらう	働くお母さん
9:40～ 9:50	行きたいと思えるような デイサービスとは	車いすの人が不便と 感じるマンション の改善策	障害理解のために ～福祉教育は 何歳から？～	企業が行っている 子育て支援について
9:50～ 10:00	おじいちゃんの 意思と環境	高齢者の自殺 について	アダプテッドスポーツの 現状とこれから ～車いすバスケ～	ひとり親家庭 について
10:00～ 10:10			埼玉県の医療費助成 ・聴覚障がい児 への支援について	中学生のひきこもり について

	パネル⑤	パネル⑥	パネル⑦	パネル⑧
時間	テーマ	テーマ	テーマ	テーマ
9:00～ 9:10	虐待の連鎖を 止めるには	認知症と介護	ドッグセラピーを 広める	私の家のバリアフリー ～温度差による バリア～
9:10～ 9:20	ネグレクト・虐待を 受けた子どもたち の心の現状	認知症を抱える人の 家族への直接的な サポートサービス を考える	DV～男性への対応～	居酒屋の バリアフリー
9:20～ 9:30	機能不全家庭から 子どもの心を守る	認知症の食事介助 について	ホームレスについて	見直す地域の バリアフリー
9:40～ 9:50	虐待へとつながる しつけの悩み	認知症の介護者の ストレスとは？ ～ストレス解消法 の考案～	ボランティアの 地域性について	筑坂のバリアフリー ～どんなバリアが ある？～
9:50～ 10:00	保育園と幼稚園で 体力の違いが でるのか？	在宅介護での 介護者の苦しみを 少なくするには	万引き高齢者	鉄道のバリアフリー ～坂戸駅と周辺の駅 を比較する～
10:00～ 10:10	子どもの外遊び の減少について	「男性による介護」 について	ユニバーサルデザインの服 の問題点と改善策	ハートビル法の普及 とバリアフリー